



育児まんが日記 せかいのことば

齋藤陽道＝著

定価1,980円（本体1,800円＋税10%）

ナナロク社 ☎03-5749-4976

手話で話す両親と、0歳、3歳の子どものための「ことば」の成長と発見を描いた育児まんが日記。「目の前に広がるいろんなものを感じ、見つめ、まねて、自分のからだで表す。それがすでもう『ことば』なのだ」と知りました」と著者（父＝聾者）は書く。子どもとの生活には当初不安があったものの、彼らは年齢に応じ、さまざまなやり方で、自然に“ことば”を発してきた。ページを埋め尽くす愛らしいイラストからは、手話も交えた豊富な“会話”が聴こえてくる。

在宅ケアのための判断力トレーニング 訪問看護師の思考が見える

清水奈穂美＝著

定価2,200円（本体2,000円＋税10%）

医学書院 ☎03-3817-5600



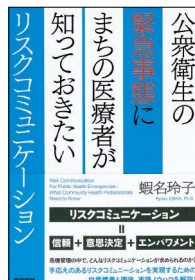
複雑な状況の前に一人での判断が求められる在宅ケア現場。そこでのプロフェッショナル＝訪問看護師の思考過程を、STEPを踏みながらトレーニングできる1冊。判断力を高める方法として、臨床推論、フレームワーク、リフレクション、認知バイアスについて、もブラックティカルに解説されている。

公衆衛生の緊急事態にまちの医療者が 知っておきたいリスクコミュニケーション

蝦名玲子＝著

定価2,860円（本体2,600円＋税10%）

医学書院 ☎03-3817-5600



with コロナの時代、リスクコミュニケーションが改めて注目されている。“正しさ”が溢れ、一言口にすれば非難される恐怖がつきまとう、不安と苛立ちが隠せない日々のなか、専門家はどのように振る舞えばよいのか。迷える“まちの医療者”に向け、医療リスクコミュニケーションの専門家が語る。

精神科の薬について知っておいてほしいこと 作用の仕方と離脱症状

ジョアンナ・モンクリフ＝著

石原孝二、松本葉子、村上純一、高木俊介、岡田愛＝訳

定価2,420円（本体2,200円＋税10%）

日本評論社 ☎03-3987-8598



精神科の薬は、身体と脳の働きを変える仕組みを有し、ときに有害である。本書では、これまで主に語られてきた疾病中心モデルではなく、薬物作用モデルから、その作用と離脱症状を詳細に解説する。長所と短所を詳らかにし、長年曖昧にされてきた精神科薬の真実に迫る。

『現代思想』12月臨時増刊号

総特集 中井久夫 1934-2022

定価1,760円（本体1,600円＋税10%）

青土社 ☎03-3292-7076



2022年8月8日に88歳で死去された中井久夫氏。長きにわたり戦後日本の精神科医療の最前線に立ち続け、阪神・淡路大震災後のこころのケアに尽力するとともに、エッセイの名手にして詩の翻訳家としても知られた中井氏を追悼して、斎藤環、東畑開人、上野千鶴子、大澤真幸、伊藤亜紗、江口重幸、松本卓也、松本俊彦、宮地尚子、村澤和多里、森川すいめい……等の方々それぞれの思いを寄せる。